

a journal



NAGOYAKINEMA
NEU

ナゴヤキネマ・
ノイ

7 2024
月号

〒464-0850

名古屋市千種区今池 1-6-13
今池スタービル 2F

Tel.052-734-7467
https://nk-neu.com

7月の定休日
火曜日

7/2・9・16
23・30

毎月発行

RESERVATION

■各作品の10日前から上映1時間前までは公式サイトからプリペイドで席のご予約ができます。

■現金でのご購入、特別鑑賞券、ご招待券をご使用の方は、10日前から当日までの窓口受付をご利用ください。

PLATFORM



公式サイト



公式 Facebook



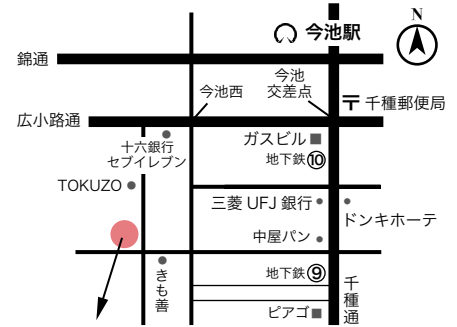
公式 X
@nkn_2024



公式 Instagram
@nkn_2024

上映スケジュール表は2面をご覧ください

ACCESS



ナゴヤキネマ・ノイ

▶地下鉄今池駅⑨・⑩番出口より徒歩3分
▶今池スタービル2F(契約駐車場なし)

6.29(土)～7.5(金)

いくさふむ
『戦雲』 アンコール

監督:三上智恵 (2024年 132分)



6.29(土)～7.19(金)

『骨を掘る男』

監督:奥間勝也 (2024年 115分)

●6/30(日) 舞台挨拶:奥間勝也さん



6.29(土)～7.5(金)

『見知らぬ人の痛み』

監督:天野大地 (2022年 27分)



6.29(土)～7.5(金) イスラーム映画祭 9 《9作品/入替》



- ①ファルハ (2021年 92分)
 - ②辛口ソースのハンスー丁 (2013年 92分)
 - ③スターリンへの贈り物 (2008年 96分)
 - ④ハーミド〜カシミールの少年 (2018年 108分)
 - ⑤アユニ/私の目、愛しい人 (2020年 74分)
 - ⑥戦禍の下で (2007年 93分)
 - ⑦私が女になった日 (2000年 74分)
 - ⑧ハンス・アップ! (2010年 92分)
 - ⑨私は今も、密かに煙草を吸っている (2016年 90分)
- 6/29(土)①、7/3(水)②の上映後にトークセッションを開催します。
●上記以外も各回、ミニ解説が付いています。

『男女残酷物語
サソリ決戦』

監督:ピエロ・スキヴァザッパ (1969年 90分)



7.6(土)～12(金)『フィシスの波文』

監督:茂木綾子 (2023年 85分)
●7/6(土)・7(日) 舞台挨拶:ウエヤマトモコさん(録音・音声編集)



7.6(土)～26(金)『ゲバルトの杜
彼は早稲田で死んだ』

監督:代島治彦 (2024年 134分)

●7/6(土) 舞台挨拶:代島治彦さん



7.6(土)～12(金)『コザママ』
うたって!コザのママさん!!

監督:中川陽介 ●7/6(土) 舞台挨拶:中川監督 (2022年 116分)



7.13(土)～26(金) ニナ・メンケスの世界

《3作品/入替》



- ①マグダレーナ・ヴィラガ (1986年 90分)
- ②クイーン・オブ・ダイヤモンド (1991年 75分4K)
- ③ブレインウォッシュ
セックス・カメラ・パワー (2022年 107分)

7.20(土)～

しづり
『倭文
旅するカジの木』

監督:北村皆雄 (2024年 119分)

●7/20(土) 舞台挨拶:折井克比古さん(樹林舎)、
7/21(日) 北村皆雄さん



ジョン・ゾーンドキュメンタリー&COBRA
7.20(土) [限定] 『Zorn』3部作

監督:マチュー・アマルリック
1部(2016年 54分) 2部(2018年 56分) 3部(2022年 78分)

●1部の前にトーク(巻上公一さん)を開催します。
●休憩2回・入替なし。●特別料金です。



7.21(日)～8.2(金) 暮らしの思想/
佐藤真 RETROSPECTIVE

《6作品/入替》



- ①阿賀に生きる (1992年 115分)
- ②まひるのほし (1998年 93分4K)
- ③SELF AND OTHERS (2000年 53分)
- ④花子 (2001年 60分4K)
- ⑤阿賀の記憶 (2004年 55分)
- ⑥エドワード・サイド OUT OF PLACE (2005年 137分4K)

※4K作品は2Kでの上映です。

7.27(土)～8.9(金)『ユニコーン・
ウォーズ』

監督:アルベルト・パスケス (2022年 92分)



7.27(土)～
『ちゃんやのはなし
- 四百年の旅人 -』

監督:松倉大夏 (2023年 117分)



7 月上映スケジュール表

※7/2・9・16・23・30(火)は休館です。

6/29(土)～7/5(金)

	6/29(土)	30(日)	7/1(月)	3(水)	4(木)	5(金)
11:00	『戦 雲 いくさふむ』					
13:30	『骨を掘る男』					
15:45	『見知らぬ人の痛み』					
16:30	『ファルハ』	『スターリンへ』	『アユニ / 私』	『辛口ソース』	『ハーミド』	『ハンズ・アップ』
日 替	19:20 『辛口ソース』	19:00 『ハーミド』	19:00 『戦禍の』	19:30 『アユニ』	19:00 『私が女』	19:00 『私は今も』

7/6(土)～12(金)

	6(土)	7(日)	8(月)	10(水)	11(木)	12(金)
11:00	『ゲバルトの杜 (もり) 彼は早稲田で死んだ』					
13:50	『男女残酷物語 サソリ決戦』					
15:40	『フィシスの波文』					
17:20	『骨を掘る男』					
19:30	『コザママ ♪うたって! コザのママさん!!』					

7/13(土)～19(金)

	13(土)	14(日)	15(月)	17(水)	18(木)	19(金)
11:00	『骨を掘る男』					
13:10	『ゲバルトの杜 (もり) 彼は早稲田で死んだ』					
15:40	③ブレイン	②クイーン	①マグダレーナ	③ブレイン	②クイーン	①マグダレーナ
17:45	①マグダレーナ	③ブレイン	②クイーン	①マグダレーナ	③ブレイン	②クイーン
19:50	『男女残酷物語 サソリ決戦』					

7/20(土)～26(金)

	20(土)	21(日)	22(月)	24(水)	25(木)	26(金)
11:00	『倭 文 (しづり) 旅するカジの木』					
13:30	ジョン・ゾンドキュメンタリー 『Zorn』 3 部作	13:20 ①阿賀に	⑥サイド	②まひるの	①阿賀に	②まひるの
		15:40 ⑤阿賀の	16:00 ③SELF	15:15 ④花子	15:40 ⑤阿賀の	15:15 ④花子
17:40	『ゲバルトの杜』	17:10	『ゲバルトの杜 (もり) 彼は早稲田で死んだ』			
19:40	(土)のみ 20:10 ②クイーン	③ブレイン	①マグダレーナ	③ブレイン	②クイーン	③ブレイン

7/27(土)～8/2(金)

	27(土)	28(日)	29(月)	31(水)	8/1(木)	2(金)
11:00	『ユニコーン・ウォーズ』					
12:50	『ちゃんやのはなし - 四百年の旅人 -』					
15:10	『倭 文 (しづり) 旅するカジの木』					
17:30	③SELF	②まひるの	⑤阿賀の	⑥サイド	④花子	①阿賀に
日 替	18:45 ⑥サイド	19:20 ④花子	18:45 ①阿賀に	20:10 ⑤阿賀の	18:45 ②まひるの	19:45 ⑤阿賀の

ご入場料金・入替制

一般 1800 円 大学生・会員 1400 円 高校生以下 1000 円 シニア(60 歳以上)1300 円
障がい者・会員(シニア・学生)1100 円 ペア割(2 名)2800 円

- 会員サービスディ: 木曜日 会員・障がい者 1000 円・会員 1 名とのペア(2 名)2000 円
- ファーストディ 一般 1200 円 会員・障がい者 1000 円
- 『見知らぬ人の痛み』特別料金 1000 円均一。
- 『イスラーム映画祭 9』期間内に 2 作品以上をご覧になる方は、2 作目以降の一般料金から 200 円を割り引きます。
- 『Zorn』3 部作: 特別料金 3500 円均一。クラウドファンディング招待券はお使いいただけません。

同日 19:00 から TOKUZO で開催されるライブ(COBRA)をご覧の方は、当館のチケットをご提示で特典を差し上げます。

会員募集

お申込日から 1 年有効で 2000 円。会員特典は当日ご料金の割引きのみにになります。
受付は劇場窓口にてお願いいたします。

『戦 雲 いくさふむ』

『沖縄スパイ戦史』の三上智恵監督、6 年ぶりとなる渾身の長編ドキュメンタリー。与那国島、宮古島、石垣島、そして、奄美大島。南西諸島の美しい島々で、日米両政府の主導のもと急速に進行する軍事要塞化。自衛隊ミサイル部隊の配備や、空港や港湾施設が軍事拠点として利用されることが日常化していく流れの中で、そこに住む人々が、何を見て、どのように考えているか をつぶさに見つめる。(132 分)

『骨を掘る男』

ガマ、と呼ばれる沖縄の自然壕で、沖縄戦の戦没者の遺骨収集を続ける具志堅隆松。その作業はすでに 40 年に及ぶ。散乱した遺骨や遺品を集め、弔う。彼はその行為を「行動的慰霊」と呼ぶ。監督の奥間勝也は沖縄戦で大叔母を亡くしている。遺骨収集に同行し、カメラを回しながら、「出逢ったことのない人の死を悼むことができるのだろうか?」と自問する。その問いかけが強く胸を打つ 115 分。

『見知らぬ人の痛み』

ネット上の残酷な動画を削除するアルバイトを始めた倫子(大西礼芳)。生徒からのいじめで教員を辞めた彼女は、ネット上の死や暴力にショックを受けながら、心の隙間を埋めるように、過剰にのめり込むのだが…。(27 分)

『イスラーム映画祭 9』9 作品・入替

世界中の映画を通し、イスラーム文化を伝える入り口の役割を果たしてきた映画祭も 9 回め。イスラエルのパレスチナ侵攻の最初期を描く『ファルハ』(92 分)を始め、ドイツでのトルコ移民の物語『辛口ソースのハンズー丁』(92 分)、スターリン時代のカザフスタンを描く『スターリンへの贈り物』(96 分)、チェチェンを離れパリで暮らす少女の視線が鮮烈な『ハンズ・アップ!』など計 9 作品をプログラム。2 回のトークイベント以外にも、映画祭主宰の藤本高之さんが各回で詳細な解説をプラス。見どころ、聞きどころ満載の一週間です。

『ゲバルトの杜 彼は早稲田で死んだ』

1972 年 11 月、早大文学部キャンパス内で起きた川口大三郎さんの死をめぐる当時の友人や学生同士で自治の支配権を争っていた各派学生の証言に、早大劇研 OB の鴻上尚史演出による凄惨なリンチの短編劇を織り込み、語られることなかった「内ゲバ」の背景への肉薄を試みた鬼気迫るドキュメンタリー。樋田毅・内田樹・池上彰ほか出演。(134 分)

『男女残酷物語 サソリ決戦』

背徳の世界にジェンダー対立を盛り込んだ、異色でモダンなイタリア発未公開作品。裏の顔は拷問の達人である財団のエlegantな支配者セイヤー(フィリップ・ルロワ:『穴』『黄金の七人』6 月に急逝)がジャーナリストのメアリーを拉致監禁する…。音楽、ガジェット溢れる拷問の館と美術家ニキ・ド・サンファルのレプリカなど豪華な造形にも注目。(90 分)

『フィシスの波文』

京都に 400 年受け継がれる「唐長」の唐紙文様を起点に、時空を超え太古から型どられたフィシス(あるがままの自然)を求めて中東、ケルト、アイヌ文化やデザイン(エルメス、ミナペルホネン)へ、自然と人間の内面をつないで生まれる美を取材したドキュメンタリー。音楽:フレッド・プリス。タイトル考案:中沢新一。録音:ウエヤマトモコ。(85 分)

『コザママ♪うたって!コザのママさん!!』

かつてコザの銀天街で大人気だった女子高生四人組バンド、銀天ガールズ。プロになるかどうかで空中分解してから、すでに長い月日が流れた。ベトナム戦争当時、黒人音楽の影響を受けたミュージシャンが集った街も廃れてしまったが、町おこしのために、バンド復活の話が持ち上がる…。沖縄に拠点を移した中川陽介監督監督、久々の長編。音楽担当はショーロクラブの沢田穠治。(116 分)

ニナ・メンケスの世界 3 作品 / 入替

米国の表象文化における孤高の映画制作者メンケス監督が女性たちの内面や孤独や暴力をテーマに、独自の美学を追求する 3 作品を公開。『**ブレインウォッシュ セックス-カメラ-パワー**』はフェミニストの映画理論家たちが探求してきた映画における「Male Gaze (男性のまなざし)」の表現を、数々の名作から引用し解き明かすドキュメンタリー (107 分)。男性客殺人の容疑で逮捕された娼婦アイダ(ティンカ・メンケス)の語られざる事実を遡る『**マグダレーナ・ヴィラガ**』。冷徹な世界の中に主人公の静かな闘いが浮かび上がる傑作。(90 分)。ラスベガス。カジノの倦怠の中で女性ディーラーをとらえ、90 年代米国の『ジャンス・ディエルマン…』と評された『**クイーン・オブ・ダイヤモンド**』。(70 分)

『倭 文 旅するカジの木』

日本書紀に記される幻の織物、倭文。邪を祓い、身体を護る神聖な力を持つという、その織物の起原、原料となるカジの木の由来を追って、台湾、インドネシアのスラウェシ島、バブアニューギニアへとカメラは向かう。映像民俗学を標榜し日本の習俗を記録してきた北村皆雄監督作品。神話再現パートは、大駱駝艦主宰の鷹赤兄とコムアイによって構成され、雄大な構想に圧倒される 119 分。

『Zorn』3 部作

昨年 70 歳を迎えたサックス・プレイヤー、ジョン・ゾーンを記念して、音楽家巻上公一が主宰する映画とライブのイベントをライブハウス TOKUZO と 7/20 に共同開催。映画は当館にて、有名俳優映画監督のマチュー・アマルリックがジョンに密着した 12 年の記録を 3 部構成(入替なし。休憩 2 回。巻上さんのトーク付)にて公開。(188 分)

暮らしの思想 佐藤真 / RETROSPECTIVE 6 作品 / 入替

90 年代にそれまでの系譜とは異なり、取材対象の日常への視線を撮ることで、ドキュメンタリーのもう一つの入り口を探索し、惜しまれて夭折した佐藤真(1957 ～ 2007)の軌跡をたどる。①**阿賀に生きる** 新潟水俣病の地となった阿賀野川の地域にスタッフが移住し、川と共に生きてきた人々の風土を記録した記念碑的傑作。(115 分)②**まひるのほし** 知的障害者と呼ばれる人々の美術作品や鋭いリリックが生み出す驚きをいち早く世に知らしめた魅力溢れる傑作。93 分)③**SELF AND OTHERS** 一度見たら忘れられない、夭折した写真家、牛腸茂雄の作品と残された草稿やテープから創造される珠玉の評伝。53 分)④ **花子** 夕食の残り物を素材に作品を作る今村花子。そのユニークな作品に芸術を発見し、写真に撮り続け

next arts 通信

ブランクーシ 《スタンディング・ボーイ》

「ブランクーシ 本質を象る」展がアーティゾン美術館で開催中だ(7 月 7 日まで)。純粋なフォルムの探究を通じて、ロダン以後の 20 世紀彫刻の先駆者として知られるコンスタンティン・ブランクーシ(1876-1957 年)。彫刻を主体とする本格的な回顧展は、日本の美術館では初ということでも話題になっている。展示ではキャプションが掲示されておらず、手元のリストで作品情報を照合する趣向だ。写真や映像などからも、あらたな気づきを得ることができ、嬉しく鑑賞した。幼い子が右手をあげて顔に押し当てて泣いている《スタンディング・ボーイ》(1913 年頃)は、本展では重要な絵画作品として位置付けられていた。メナード美術館で何度も観ている作品だが、これは 1914 年のニューヨークでの初個展で発表された木の彫刻《最初の一步》の準備段階で描かれたとのこと。後にブランクーシは木の胴体を破棄して頭部だけを残し、《子どもの頭部》として再生した。ちなみにこれを原型とした磨きブロンズ作品の一つが名古屋美術館の「うぶこえ」(1917 年、1984 年鑄造)である。

命の根源としてのフォルムを追究したブランクーシの独自性と、作品の位置付けが丁寧に伝わる展観だ。なお、祖国ルーマニアのトゥルグ・ジウの公園のためのモニュメントを制作する記録映像も貴重で目をみはった。《無限柱》をのぞみ《接吻の門》をくぐって《沈黙のテーブル》に佇むのが、私の夢だと再確認した。

【トトチ】

無知の知

(その 3) トリチウム汚染水の真実

東電と国は福島原発事故で貯まった膨大な量のトリチウム汚染水(以下、T 水)の海洋放出を昨年 8 月 24 日から始めた。この海洋放出は福島県漁連との合意無しには放出しない、という約束を一方的に破棄したものだ。

汚染水の量は 134 万 m3、タンク 1061 本。含まれる放射性物質 T は 860×1010Bq(ベクレル)という膨大な量である。この汚染水には T 以外のストロンチウム 90 等の放射能も基準値を超える濃度で含まれている。

これを海水中で薄めて約 30 年間海に流す、と云うがそれで終わる保証はない。今も毎日 80m3 の新たな汚染水が発生しているのだ。実は T 汚染水は千倍に濃縮してタンク 1 個に貯蔵すれば安全に長期保管出来る。その技術は既に在るのに国と東電は何故海洋放出に拘るのか。

その理由の一つが青森県六ヶ所村の再処理工場にあると筆者は考える。トラブル続きのこの工場が完成すれば高レベル放射性廃棄物形成の際に発生する T は海と空に放出する予定で、その量は毎年福島汚染水の 20 倍を海に、2 倍を大気に放出する。福島の汚染水を処理すれば、当然、六ヶ所の汚染水も処理せざるを得なくなる。その膨大なコストを考えれば再処理工場運転は不可能になる。福島の汚染水問題は六ヶ所再処理工場運転の露払いである。

(MK)

た母。花子を取りまく家族の物語。(60 分)⑤**阿賀の記憶** 『阿賀に生きる』から 10 年。映画に登場した愛すべき人々の多くがこの世を去った地を再訪する。(55 分)⑥**エドワード・サイード OUT OF PLACE** 生涯をパレスチナ問題に捧げた研究者の亡き後、その不在をみつめ取材した遺作。(137 分)

『ユニコーン・ウォーズ』

ファンタジックな幻獣ユニコーンとぬいぐるみのティディ・ベア。彼らに有限の生命を与え、森の覇権をめぐるて血肉をむさぼり合う究極の戦争と軍隊・宗教そして家族を描ききった大作。スペインの鬼才アニメーション作家アルベルト・バスケスは本作でゴヤ賞最優秀長編アニメーション映画賞を受賞。(92 分)

『ちゃんやのはなし 一四百年の旅人』

朝鮮半島にルーツを持つ陶工たちの苦闘と研鑽を描くドキュメンタリー作品。豊田秀吉の朝鮮出兵の際に、多くの西日本の大名が朝鮮人陶工を日本に連れ帰った。中でも島津家の庇護のもと、後に沈壽官家の初代となる沈当吉は、薩摩焼の礎を築き、以来十五代、重厚かつ精緻な作風は世界に知られる。上野焼や萩焼などのルーツにも触れつつ、日本と韓国の陶芸文化の交流の歴史を浮かび上がらせる。語り＝小林薫(117 分)

パッと、みて、ポン！

このコーナーは主に演劇について書こうと思っているのだが、いかんせん、その情報がなかなか入ってこない。東京の情報は多いが、地元に関してである。新型コロナによる規制以前は、公演チラシが観劇の際に手渡されたり、雑貨屋や飲食店などに置かれていたりしたが、最近では WEB での情報伝達が主流になったのか、紙のチラシを見る機会が少なくなった。確かに、紙のチラシは最終的にゴミとなるわけで、それを使わないのは、ある意味でエコな方法だが、主催者がこれまでのことを考えているのかは分からない。無駄を省いてコストを削減することは大切だが、様々な媒体や場所を利用することへの労力は、情報の伝達に必要だと思う。人の興味を引くことについて、単純接触効果というものがある。それは、一度見た(あるいは聞いた)だけでは注目しないが、二度三度と、しかも異なる媒体や場所で見聞すると、「これは何だ?」と興味を持ち始めるというものだ。

WEB という単一媒体だけでは、例え複数のサイトを利用しても、限定的と考えられる。と言うのも、最近デジタルデトックスという言葉を時折聞く。スマホの利用時間や SNS への接触回数を自主的に減らしていく行動だ。そうした背景からも、多くの人たちに情報を届けるには、多様な媒体を利用する必要があると思っている。今年に入って 5 月までの観劇数が 10 本と筆者としては少ない。しかも半数は筆者が何某か関わる公演。この先、どれほどの公演情報に接することができるのか。

(P)

ウニタ書店情報 (052-731-1380)

書店の苦境が叫ばれるようになって久しい。店舗数も以前は全国で 2 万を数えたが、減少に歯止めがきかず、今や 1 万を下回るのも時間の問題と言われている。

昨年 7 月のちくさ正文館書店の閉店には衝撃を受けたが、今年も各地で地域に根づいてきた書店の閉店があいついでいる。

こうした状況に、経済産業省が対策に乗り出すまでになっているが、既得権益を守ろうとする姿勢が目立ち、書店の存在意味を問うような本質的な議論はあまり見かけない。

今年 3 月に刊行された『**町の本屋という物語**』(作品社)は、書店の未来を考える上で極めて示唆に富んだ書だ。著者の奈良敏行氏は鳥取市で定有堂書店という小規模な本屋を 4 3 年間にわたり営んできた。昨年 4 月に惜しまれながら閉店したが、これまで折々に発表してきた文書が時系列で収められている。

そこで繰り返し強調されているのは、地域の人々とのつながりである。店を訪れる読者との関係性のおかげで人文書について知識を深め、棚揃えを変化させ、また読書会なども主宰して、個性的な本屋へと変貌していく過程が綴られている。そこには全国チェーンの大型書店とは異なる、小規模書店の持続可能なあり方が示されているように思われる。その意味でも、学ぶべきことの多い書といえる。

いなかのじけん

大杉

H 多君ちに茹でタケノコを持って行くと、「あのさあ、あの奥にさあ、でっかい杉の木があったよねえ。週 3 日の仕事になってさあ、ヒマをみつけてあっちこっち昔の記憶をたどって歩いとるんだわー。あっれー、この辺だったけどなああって、あらへんのだわー、どこ行っちゃったあ。」動きません、『マクベス』ちゃうで。「あのさあ、はずれの畑で草むしりしってたおばちゃんに聞いてもさあ、わたしや 30 年前に嫁いだ婆たばっかの新参もんだで、そんな本知らんなあって言ったんだわー。」

確かに子供のころ、村はずれに大杉があった。3、4 人で手をつないでやっと 1 周できるかどうかぐらいの太さだった。

私は聞いたことがある。

ある日、材木屋がやって来て、地主に持ちかけた。この木を売ってくれないか、大したものだ。しかし、中が空洞になっているかもしれない。そこでだ、木を切らずに値段をつきせさせてもらうと、これ位だ。切ってからの値段だと、中までしっかとしたら、これ位、空洞だったら、これ位。どうするね。もちろん最初の「これ位」は中間値、次のは最高値、おしまいは最安値。賭けである。地主さんは勝負に出た。結果、空洞があり、最安値で売却。負けた。

酔っばらった父からこの話を聞いたのは、40 年程前のことだったと思う。若奥様がご存知ないのも、むべなるかな。

